

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501050		
法人名	有限会社ライフアート		
事業所名	グループホーム福寿荘		
所在地	札幌市白石区北郷3条9丁目1-31		
自己評価作成日	平成22年12月	評価結果市町村受理日	平成23年4月4日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://77.system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/informationPublic.do?JCD=0170501050&amp;SCD=320">http://77.system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/informationPublic.do?JCD=0170501050&amp;SCD=320</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成23年3月25日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お一人おひとりの持てる力・活かせる力を発揮しながら過ごしていただけるよう、センター方式を用いてアセスメントを行い、本人へのさり気ない支援につなげている。また、社の理念である「一人を大切に」をモットーに、その方の思いを汲み取りながらその思いを断ち切ることがないよう、ご家族や本人を取り巻く方々にもお力添えを頂きながらお一人おひとりそれぞれへの個別援助を徹底している。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 1) ホームの環境;住居と商店街が混成し、北13条北郷通に面し、交通至便。散歩道に公園がある。民家改造の家庭的なホーム。
- 2) 職員の姿勢・態度;静かな声かけ、親身さ、よく聴き、心の交流を大切に心接している。
- 3) 利用者の意向;普段のことは、動作を大切にその意向を介護に活かしている。
- 4) 家族との関係;アンケートの好感度の結果は97%と高い。
- 5) 運営推進会議の開催状況;定例に開催して地域・家族・包括支援センターの意見や助言を運営に活かしている。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づきケアを行い、ケアの中で課題が出た際には理念に立ち戻り職員の中で話し合いをしながら実践につなげている	法人理念、ホームの目的、ケアの理念を誰にも分かりやすく示し、説明し、職員相互が確認して実践している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り、地域行事や総会に参加している。また、日常的に入居者と散歩に出たり、回覧板と一緒にまわすなど外にでており、地域住民と出会ったときは積極的にあいさつしている。	町内会の一員として参加し、共に日常的な近隣のお付き合いと行事を含む交流を重ねている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議や防災訓練への呼びかけを行い具体的な理解をしてもらえるよう努めている		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	防災訓練への呼びかけを回覧板で配布したり、推進会議への働きかけを行うことで地域住民の参加につながっている。また、事業所での取り組みを地域に広めることについても意見をいただいたりしている。	定例的に運営推進会議を開催し、ホームの運営状況を報告と共に防災等の働きかけをして、ホームの活動を知っていただくと共に委員の意見や助言を運営に活かしている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	年数回の札幌市の管理者会議に参加	札幌市の管理者会議をホーム連絡協議会が主催し、行政とともに情報交換によって連携を図っている。	利用者個々の行政上の支援窓口との関連のある場合に付いても、家族等の要望があれば間接的な支援に配慮されるよう望みます。
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修で取り上げ、スタッフが正しい知識をもち日常のケアにあたっている	サービス指定基準はもとより、拘束禁止原則や虐待、個人プライバシー保護等を含めた人権擁護の知識・技術を社内研修で深め実践している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修や外部研修に参加する中で、学び話し合う機会をもち、虐待について理解を深めている。また、虐待防止委員会を設置し、事業所内で振り返り考える場を設けている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内で学習する機会はなかった		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に本人・家族に来訪していただき、ホームでの生活について、家族・本人ともに感じる不安や疑問があれば理解を得られるよう十分に話し合う機会を設けている		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人からの意見をふまえ、具体的な形で実施できるよう努めている(トイレの手すり設置や椅子の新調など)また、ご意見箱の設置・苦情相談窓口を設けている。外部への苦情相談窓口についてもわかるように掲示している。家族会の際に意見等をうかがうようにしている	意見箱の設置、苦情手続の明示、家族会での意見、さらに日常の訪問時の相談にきめ細かに対応して家族の意向を受け止め、利用者本位のケアの実践に努めている。家族のアンケート結果での評価も高い。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や日常の話し合いの中で行っている	職務上の意見交換にはユニット会議を基本に述べ合い、チームケアの効果を高めるよう努めている。また、職員の意見や意向は全体的な運営に活かしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、自己評価や課題を明確にし取り組むなかで、やりがいをもって働けるような環境づくりに努めている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年研修計画を立てて、実施している。外部研修へもスタッフがスキルアップできるような研修を積極的に受けられるよう働きかけている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者らが開催する在宅ケア連絡会への参加や区内の管理者連絡会、または複数連携事業への参加を促している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まず、本人と家族に来院してもらい、話をゆっくり聞くことから始めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と同様に家族からもゆっくり話を聞く中で、不安や意向などを伺っている。家族からの相談は可能な限りすぐに対応できるようにしている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極め、できることがあれば支援につなげている		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と話し合う機会を常に持てる努力をし、得意なことやできることは職員が教えてもらうような関係づくりに努めている		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡ノートを活用し本人の思いや出来事などを綴るようにしている。来訪の際には時間を設け、本人への家族の思いも聞いている。行事などには参加を呼びかけ本人と過ごす時間を設けている		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも本人に会いに来てもらえるよう来訪の時間帯は決めていない。また、以前の友人や知人にも自由に来てもらえるよう家族や本人にも働きかけている	馴染みの人などの往来が本人のため自由であるような働きかけがあり、いつでも迎える環境作りに努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	おやつ時間など、みんなに声をかけ居間で一緒にゆっくり関わる時間を設けている。また周りを見て時には仲介に入り関係を調整している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後は一切関係を断ち切るということではなく、いつでも来訪してもらえるよう働きかけている		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から何がしたいのか、困っていることなど、本人の思いや意向を把握するよう努めている。又、ケアプラン作成時には本人の普段の言葉を反映している。	日常の会話や動作などから思いや望みの把握に努めて、ケア計画作成では普段の言葉や動作で表現したケアの対応に工夫している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のアセスメントシートに記入してもらっている、また、家族や本人に話を聞き把握できるよう努めている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録に記入しながら、毎日スタッフ間でカンファレンス等の時間を設け、その都度利用者の現状把握に努めている		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思いを把握するよう努めながら常にカンファレンスの場で話し合い具体的な介護計画に反映させている。又、家族との日常の会話で思いや意見についても伺い反映させている	個々利用者の生活に応じた課題とケアのあり方をカンファレンス会議で話し合い具体的な計画に反映し、家族の意向とともにケア全体に活かすよう努めている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りやノートの活用によって情報や気づきを共有しており、実践につなげているが、介護計画への反映にはやや時間を要している		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の意向に合わせ、自宅へ出かける際に同伴したり、必要に応じて受診に同行するなどしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の理美容室の利用や、近くの商店への買い物、町内の回覧回しなど一人一人のニーズに合わせた生活を送れるよう支援している		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による定期往診の他、本人とつながりのあるところとは関係が切れることのないよう本人・家族の希望に応じ柔軟に対応している	連携医療機関を中心に毎週の定期的な看護師の点検の下に、2週に1回の往診に対応している。個別的なかわりも家族と相談して共に支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所看護師による定期的な健康チェックの他、体調不良時などはかかりつけ医との連携をとり適切かつ迅速な対応できるように仕組みがある		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、可能な限り面会へ行くなど本人の不安を軽減するよう努めている、又、治療の経過や本人の状況など情報提供を頂きながら、入院先の関係者と早期退院にむけた話し合いを行っている		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応マニュアルに基づき取り組んでいる、又、状況変化に伴いその都度本人・家族と話し合い、意向の確認を行った上でできる限り沿えるよう意思統一を図っている	入居契約時に終末期等対応指針に基づき具体的な状況に応じた協議を進めることとしている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿って対応し、一人一人の持つリスクについては想定される状況について前もって話し合っている、定期的な訓練は行っていない		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、定期的に行い、地域住民や運営推進会議員にも働きかけ参加してもらえよう働きかけている	白石区の地域防災計画の下に具体化するよう運営推進会議等で協力関係を働きかけている。また、定例の防災訓練等を実行している。	地域防災はホーム単独での対応は難しく、今後とも、身近な地域での防災協力関係の働きかけを続けられるよう期待します。
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	記録については間違いのないよう十分配慮して取り扱っている、また、一人一人その人に合わせた言葉遣い・口調を用いて丁寧に話すよう心掛けている、排泄状況の情報は記号や利用者の前で話さないことを徹底している	人格の尊重の観念を職員が共通理解に努めて、個々の誇りやプライバシーを損ねない職員のことばや動作について具体的な学習を重ねている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で丁寧に話を聞き、ケアプランに反映させている、また、本人の希望や思いが表しやすいよう話しかける言葉数やスピードを一人一人に合わせて配慮している		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	前日の会話の内容や夜間の様子を共有し、その日一日の組み立てを行っている、また、変更する場合は職員間でしっかりと情報共有しながら行っている		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が行きたいと思う時期を考慮しながら声掛けを行い支援している、また、本人が傷つかぬよう配慮しながら洋服の着替えや整髪等の身だしなみの支援を行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に献立を書いてもらい食事内容がわかるようにしている、食事は一緒に食べながら集中して食べられる雰囲気づくりを行い、一人一人がおいしく食事ができるよう配慮している	食事への関心を共にする工夫や一緒に盛り付けるなど、皆で一緒に食事できる楽しみを味わえる雰囲気作りに努めている。献立を写真に記録して栄養バランスなど専門家の意見を聞いている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日中だけでなく、夜間を通して適度な食事と必要な水分が摂れるよう工夫している、24時間で記録をつけながら足りない分を補えるようにしている			
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の生活リズムに合わせて行っているが、毎食後できていない方もいる			
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要に応じて排泄パターンを把握し、一人一人の排泄のサインをしぐさや行動から見つけ、見逃さないよう声掛けや誘導を行うなどの支援を行っている	個々の失禁に留意して、気持ちのよい生活ができるように工夫した対応に努めている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬にと頼ることのないよう活動と休息のバランスを整える支援(外出・体操・それぞれの役割活動など)を行うとともに、意識的に飲食物での働きかけも行っている			
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回は入れるよう努めているが、本人の意向や気持ちを尊重し、希望に合わせて支援している	個々の心身の状況や意向を考慮して、週2回の入浴支援に努めている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活リズムに合わせて寝るまで居間で過ごして頂いたり、不安がある方へはゆっくり話を聞くなど安心して休めるよう働きかけている			
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容が変更の際は、副作用についての理解をスタッフ全員が行うと共に、服用後の変化について見逃さぬよう「気づき」の共有を行っている			
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干しやたたみもの、掃除機かけ・習字・音楽・読書など、また散歩や買い物など気分転換できる機会をつくらせている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望や体調を考慮しながら、散歩・ドライブ・買い物・理美容などへの外出の支援を行っている。墓参りや自宅へ帰ってみるなど一人一人の要望に合わせてご家族の協力を頂きながら個別の支援を行っている	園庭に出てみる、ホーム近隣の散歩に出るなど身近な外出や買い物、ドライブなど家族の協力と共に、室内に留まらないよう留意した対応に工夫を重ねている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持できる方には本人が安心して持ってもらえる金額をご家族本人と相談し行っている、また、買い物や外出の際には持ち歩いて自分で適切に使えるよう支援している		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の意向を尊重し、本人・ご家族に負担にならないようスタッフが調整に入ったりしている、また、意向を表出できないようなときも本人の意向を汲み取りながら電話や手紙を送って頂けるようご家族と相談しながら支援につなげている		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	暗すぎたり、明るすぎたりすることのないよう、カーテンや照明での調節している、スタッフは入居者の側では私語のないようにし、調理や掃除の音などで生活感を感じられるよう努めている	南に面したホームは明るく、室温等に留意した居間中心に、畳敷きの床の間、確かな民家の家庭風味を感じるつくりと食堂、浴室、トイレなど機能的に配置された介護設備が整えられている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	縁側・台所・2階のソファなどがありそれぞれの場面に合わせた居場所づくりに努めている		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ本人の生活の中で愛着のある、なじみの深いものを持ち込んでもらい、本人にとって居心地の良い空間になるよう努め、随時本人・家族と共にしつらえなど相談しながら行っている	各居室は民家を改造した風味を活かし、個々の馴染みある備品等を用意して、居心地よい空間をつくっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具の配置や視覚での訴えに働きかける工夫など、一人一人の力に合わせた支援を心掛けており、必要であれば随時カンファレンスを行い変更している		